

## 子ども達のにぎやかな声響く。児童センターまつり



2月21日、子どもセンターつばさ内の児童センターで「児童センターまつり」が開催され、たくさんの親子連れなどでにぎわいました。

会場となった体育館には、輪投げやユニボールすくい、射的などさまざまなコーナーが準備されていて、集まった子どもたちは参加チケット

を手に、思い思いに駆け回って楽しんでいました。また、民生委員児童委員協議会が協力したお楽しみ抽選会では、いろいろな景品が用意され、玄関ホールで開催された母親クラブ共催のフリーマーケットでは、雑貨や日用品、お米などの商品が販売されました。

## 学生が福祉の現場を体験 市内企業インターンシップを実施

若者の就職や定住の促進を目的とした「市内企業インターンシップ」を2月25日から27日までの3日間の日程で実施しました。

今回は、社会福祉法人愛和福祉会星の広場ほか1社を受入企業として、星槎道都大学1年の水口カオルさんと十川絵里奈さんの2人が参加。

最終日には意見交換会が行われ、水口さんは「教科書では学べない現場の大切さを知った」、十川さんは「働く皆さんの真面目な姿が印象的だった」と感想を語りました。星の広場の担当者は「学ぶ姿勢が素晴らしく、将来の福祉分野での活躍に期待したい」と話しました。



## もしもの災害に備えて 避難所暮らしを学ぶ講座



3月5日、総合福祉センターで社会福祉協議会主催の市民講座「もしもの時に備える!避難所暮らし講座」が開かれ、市民40人が参加しました。

講師に北海道災害支援ボランティアTEAM Northの皆様をお招きし、講座では災害時の避難所生活や災害ボランティアの役割、日頃からの備

えの大切さについて説明があり、ペットと避難する際の準備や地域で支え合うことの重要性にも触れました。後半はグループに分かれ、段ボールベッドの組み立てや簡易トイレの使い方を体験。災害時の避難所の環境づくりを実際に学び、いざという時に役立つ知識を深めました。

## 起業家応援で地域を活性化。第1回芦別地域クラウド交流会

3月14日、地域住民から起業家への応援を通して地域活性化を目指す「第1回芦別地域クラウド交流会」が株式会社ドゥネン(道島悠太社長)の主催により総合福祉センターで開催され、88人の参加者が集まり会場は熱気に包まれました。

同交流会はサイボウズ株式会社が

全国で展開する事業で当日は5人の起業家が3分で事業を発表し、参加者は応援したいと思った起業家に自分の1票を投票しました。

芦別駅前でのコンテナ型体験宿泊施設事業の計画を発表したFJファイナンス株式会社 藤田悠介社長が優勝し支援金などが贈られました。

